

**Q** 父が社長で、引退年齢に差しかかっています。父は創業社長で、営業も労務も何でも自分でこなしてきました。家庭を顧みず、会社のため、社員のために懸命に働いてきました。そんな父の後継者として、何を主眼に考え、行動するべきでしょうか？

**A** まず後継者となる方にとってほしいことがありま  
す。それは、会社のことばかりでなく、自分自身や家族を大切にしてほしいことです。

社長・従業員からの重圧や期待を無意識で強く受け、肩肘張って無理をしていません

## 後継者の経営引き継ぎ

会社のためだけに働くといった考え方も以前は一般的でしたが、現在は肯定されにくい時代になっています。家庭は会社と同じくらい大切であり、どちらか一方を選ぶ性質のものではないのです。

そして、経営を引き継ぐ前に、ぜひ考えてもらいたいこ

とがあります。父親の会社を引き継ぐことは、自分が本当にやりたいことなのでしょうか？

仮に両親や従業員、お客さまが良くて、本当に自分自身がやりたいことでなければ、また、家庭を顧みず、

か？ 昔は、経営者たるもの会社に誰よりも早く出社し、最後に帰宅するのが美德とされてきました。しかし、残念ながらこの考え方は今の時代にはとてわなくなっています。また、家庭を顧みず、

ば、会社経営を続けることは難しいものです。選択肢は他にもあります。自分の人生は自分のものであり、会社のためや両親のためにあるのではなく、自分自身に意識を向けて、未来に向かう後継者になることが大切です。父親である社長もそうしてほしいと望んでいるのではないのでしょうか。

しかし、現実には継ぐことをやめる判断は難しいのかもできません。そのときには、ぜひ次の質問を自分自身に問い掛けてみてください。

自分が経営を継いで、一切の制約なく何をしても良いとしたらどんなことをやりたいか？

地域に少しでも多くの「事業」を残す支援をしたい。後継者の方の経営に関するお悩みなどのご相談は、ぜひ中小企業診断士にお任せください。

(中小企業診断士・大竹寛 征)

連絡先・一般社団法人埼玉  
県中小企業診断協会(204  
8・762・3350)

中小企業  
診断士による  
経営  
Q&A